

新しい一步を踏み出しましょう 神様に愛されているこどもとして生きるために

Let's make a new step forward,
to live as beloved children of God.

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)*

聖書：

43：『隣人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。44：しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。45：こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。46：あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるか。そのようなことは取税人でもするではないか。47：兄弟だけにあいさつをしたからとて、なんのすぐれた事をしているだろうか。そのようなことは異邦人でもしているではないか。48：それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となきなさい。(口語訳：マタイによる福音書第5章 43節-48節)

讃美歌：228 「ガリラヤのかぜ」

1 はじめに

みなさんは、イエスの宣教の第一声が何であったか、ご存じですか。聖書には、イエスの生涯について記録された文書が4つ「福音書」という名前で含まれています。その中で一番最初に書かれたと考えられている、マルコによる福音書の冒頭には「神の子イエス・キリストの福音の初め。」と書かれています。キリストは救い主の意味ですから、「神の子である、救い主イエスによる福音はこのように始まりました。」といった意味です。イエスの先導役をつとめた、バプテスマのヨハネという人のことが紹介され、15節に「時は満ち、神の国は近づいた。悔

い改めて福音を信じなさい」と言われた、と書かれています。これが、宣教の第一声です。今日の聖書の箇所は、マタイによる福音書ですから、マタイによる福音書の言葉を引用してみましょう。4章17節です。

「悔い改めよ、天国は近づいた」。(マタイによる福音書 第4章17節)

とても単純です。「悔い改めよ、天国は近づいた。」みなさんはこの第一声にどのような印象を持ちますか。

「悔い改めよ」と言われると、なにか自分の罪を見つけ出して、暗い顔をして、「はい、わたしは罪人です」と、告白しないといけない気分になりませんか。「天国は近づいた」というと、「そろそろ死ぬということだろうか」などと考えてしまうひともいるかも知れません。「福音」は英語では Good News ですが、これではどう見ても、よい知らせという感じがしませんね。

そこで私なりに意識してみました。

新しい一步を踏み出さない
神様に愛されているこどもとして生きる
ために

これを、わたしが皆さんに語りかける言葉にすると、本日のタイトルのようになります。

新しい一步を踏み出しましょう
神様に愛されているこどもとして生きる
ために

どうですか、ちょっと違った印象の言葉になりましたか。

マタイによる福音書にはこのあとずっと「天国は近づいた」とはどういうことか、この言葉に賭けて、天国の市民として生きるとはどういうことかが、書

*Email: hsuzuki@icu.ac.jp

†URL <http://subsite.icu.ac.jp/people/hsuzuki/>

かれています。神様のみこころが完璧な私たちで実現される天国なんてわれわれには見当もつかないので、イエスは、さまざまな形でそれをわたしたちに示しています。その一カ所を見てみましょう。今日の聖書の箇所です。43 節から読みます。

2 新しい一歩

43:『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。44:しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

「新しい一歩」とは、このような一歩です。「そんなことはできない。」などと言うことには答えていませんが、「なぜ、『敵を愛し、迫害する者のために祈るのか』との問いには、こう答えています。

45:こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。

そしてそれに続けて

天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らして下さるからである。

となっています。神様のこどもとなるためです。

「天国の市民」として生きることは、神様のこどもとして生きること、神様を「お父ちゃん」と呼んで生きることです。そしてその「お父ちゃん」は、悪い者の上にも良い者の上にも恵みを太陽のように、雨のように降り注ぐ方だとあります。

いやなやつも含め、ひとりひとりをたいせつにし、愛するのは、神様がそのいやなやつも愛しているからです。「お父ちゃん」である神様をたいせつにすることは、そのお父ちゃんにとってたいせつなひとを愛することでもあるから、神様を「お父ちゃん」と呼んで生きる生き方は、敵を愛し、迫害する者のために祈る生き方なのです。

3 完全な者となる

イエスは、今日の聖書の箇所でつぎのようにわたしたちを招いています。

48:それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。

そういわれても困ってしまいます。神様が完全であるのは良いとして、わたしたちは、完全なものになれるのでしょうか。そう考えてみると、やはり神様を「お父ちゃん」と呼ぶこと自体が、所詮無理だと思ってしまう。いろいろなことがちよつとずつ不足しているのではなく、まったく不足していて、われわれには、どうしようもないぐらい足りないのです。

聖書では、そのまったく足りない不足分を神様の側であがなってくださった、かわりに払ってくださったと言っています。だから、とうてい神様のこどもになどなることのできないわたしたちが、神様を「お父ちゃん」と呼ぶことができるのです。

「もし、わたしたちが、正しい人生を送ったとしたら、神のこどもとしてくださる」とか、「たくさんのお父ちゃんのことを神様のためにしたから、神様を『お父ちゃん』と呼ぶことができるようにしてくださる」のではなく、正しい者も、悪い者も、神様が愛される故に、その足りない分を神様がかわでうめあわせてくださったというのです。それがイエスの十字架上で犠牲だと聖書は言います。

4 神様が望んでいること

新しい一歩を踏み出しましょう。神様の愛のうちに生かされているのですから。

神様が、愛して下り、神様のこどもとされる障害を取り除いてくださったのだとしたら、そしていまも愛して下さっているのだとしたら、わたしたちのすべきことは、その神様に感謝して生きることでしょうか。ここが今日みなさんに考えて頂きたいことです。

イエスはここでも、だから神様に感謝して生きなさいとは、言っていません。このすぐあとの6章には、イエスに従ってきたひとたちに、祈りについて教えています。それは「主のいのり」と言われているものですが、そこでも、イエスは神様に感謝の祈りを捧げなさいとは言っていません。

では、イエスは、そして神様は、わたしたちに何を望んでいるのでしょうか。それは「天の父の子となること」です。むろん、わたしたちと、神様の血が急につながって、それが理由で、神様がわたしたちの「お父ちゃん」になるわけではありません。

まさに天の父のようになることによって、神様のこどもになるのです。それは、もちろん、全知全能になることではありません、今日の聖書のことばに

よれば、「敵を愛し、迫害する者のために祈」ることによってです。イエスはまさにそのように生きたと聖書は証言しています。そして、神様は、神様に敵対する者をも愛し、神様を愛する者を迫害するものに対しても、愛の姿勢を変えないからです。

5 感謝の仕方

一般教育科目の「数学」の授業で小テストの最後のメッセージ欄にいろいろなことを書いてもらって、ホームページにも公開していますが、その一つのトピックは「あなたにとってたいせつなこと、ひと」です。かなりの割合の学生が、両親、家族、友人と書きます。ICUの高い学費を払ってくれているからと書くひともあります。特に家族からはなれ、一人住まいをしている学生さんは、家族や両親に支えられて、学びそして生きていることを実感しているようです。

両親や家族、そして他のいろいろな人に教えられ、また支えられて、今のわたしたちがあることは確かです。では、わたしたちは、どうすれば良いのでしょうか。収入を得るようになったら、いままでお世話になった分を感謝の気持ちをこめて、返していけば良いのでしょうか。ご両親はそれを望んでいるのでしょうか。そうではないと思います。

神様はなおさらです。神様の願いは、わたしたちが、神様のように、完全な者となることです。そして神様のように、

「敵を愛し、迫害する者のために祈り」「赦し合い、愛し合う」ようになることです。そして、それが神様のこどもとして生きることです。

みなさんのご両親への感謝もこめて「神様に愛されているこどもとして生きるために」「新しい一歩を踏み出しませんか。」

6 天国は近づいた

「天国は近づいた。」とイエスは宣言しています。本当に近づいたのでしょうか。聖書には、このように書かれています。

5: 神の国はいつ来るのかと、パリサイ人が尋ねたので、イエスは答えて言われた、「神の国は、見られるかたちで来るものではない。6: また『見よ、ここにある』『あそこにある』などとも言えない。神の国は、実にあなたがたのただ中にあるのだ」。

(ルカによる福音書 17章 20節-21節
口語訳)

わたしたちが、敵を愛し、迫害する者のために祈りはじめるときに、赦し合い、愛し合うときに、まさに、神の国は、そこに来ているのです。

7 おわりに

悔い改めという名詞のギリシャ語は「メタノイア」ですが、この「メタノイア」をカタカナで書いて逆から読むと「アイノタメ」になると、ある人に教えてもらいました。これは単なる言葉遊びですが、悔い改めで終わることをイエスはそして神様は望んでいません。神様が望んでいるのは、神様の愛に生かされて、愛し、理解し、赦し、神様に赦され、神の子として生きることです。

Weekly Giants の新年号に、ICU の設立者たちのことが紹介され、そのなかで、初代学長の湯浅八郎先生の「生活信条」が引用されていました。これは、武田清子先生の書かれた「湯浅八郎と二十世紀」にも載っていますが、それを最後に引用します。

生きることは、愛すること
愛することは、理解すること
理解することは、赦すこと
赦すことは、赦されること
赦されることは、救われること

新しい一歩を踏み出しましょう。神様の愛のうちに生かされているのですから。

新しい一歩は、神様の愛のうちに生かされていることをしり、神様のこどもとして愛に生きる一歩です。湯浅八郎先生のように。

8 祈り

祈ります。

天にいらっしやいますお父様。

どうぞあなたのように、敵を愛し、迫害する者のために祈るものとさせてください。

そして新しい一歩を踏み出させてください。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。